

町長の改革日記



将来を見据えた

まちづくり

名古屋市との合併を

進めます

住みやすいまちを目指して、「いいまちづくり good day」をキャッチフレーズに、11月11日を大治町の「いいまちづくり記念日」にしました。さらに毎月11日を「まちづくりの日」とし、さまざまな活動を展開していきます。まずは、6月11日に町職員の有志45人と町内3つの小学校であいさつ運動をしました。私は4月から毎朝、各小学校に出向いてあいさつ運動をしてきましたが、この3カ月で子どもたちが大変元気にあいさつができるよう

になったと思います。子どもたちが元気にあいさつをするところによって、まわりの大人たちもあいさつをするようになり、町全体が明るく元気になるでしょう。



●あいさつ運動

5月21日(月)に名古屋市の河村市長と面会し、正式に名古屋市との合併協議会の設立を申し入れました。河村市長から「市民、町民、両議会が納得しなければいけないが、雰囲気良かったら協議会に」との前向きな発言がありました。5月30日(水)に木曾三川流域自治体サミットにおいて河村市長と会食をした際にも「早く合併しよまい」と言われま

した。

合併しなくても、現状維持ならば10年くらいは町単独でやっていけるかもしれません。しかし、20年、30年先を考えたときに果たして住みやすいまちとなつていくでしょうか。道路には歩道も少なく、子どもたちが安全に遊べる大きな公園もありません。大治町のよいうな小さな町では、インフラ整備などの大きな事業は財政規模が小さくなかなか進みません。下水道の整備においても国から2分の1の補助をいただいて進めておりますが、国が1000兆円もの借金を抱えており、将来にわたって補助をいただけるか不透明です。その



●名古屋市へ合併協議会の設立を要請

ためにも日常生活圏が重なる名古屋市と合併して財政基盤を強化し、将来を見据えたまちづくりを進めていきたいと思つていきます。

町議会にも合併協議会の設立を申し入れましたが、時期尚早だということづくれません。6月議会中に合併にかかる特別委員会をつくるというのですが、私はスピードが勝負だと思つていきます。名古屋から「ウエルカム」と言っているだけ今、千載一遇のチャンスだと思つていきますので、住民の皆さんも合併の機運を高めていきましょう。

大治町長

岩本好広



●木曾三川流域自治体サミットに参加